

日本司法福祉学会 ニュース No.26

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室気付
Tel: 059-383-9208 (内線2407) Fax: 059-383-9666

日本社会福祉系学会連合に加盟

2011年5月28日(土)、東洋大学白山第2キャンパスにおいて、2010年度日本社会福祉系学会連合の総会が開催され、日本司法福祉学会の「正会員」としての加盟が承認されました。同連合は、2006年に結成され、次のような事業を実施しています。

- ①会員の活動に関する情報交換
- ②シンポジウム等の開催
- ③日本学術会議の活動に対する支援と協力
- ④その他会員により活動の促進に貢献する事業

現在の加盟団体は、社会事業史学会、日本医療社会福祉学会、日本介護福祉学会、日本家族研究・家族療学会、日本看護福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本子ども福祉学会、日本在宅ケア学会、日本社会福祉学会、日本社会福祉教育学会、日本ソーシャルワーク学会、日本社会分析学会、日本職業リ

ハビリテーション学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会、日本福祉文化学会、日本仏教社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会と私たち日本司法福祉学会(以上20学会)です。

同連合の活動の一つに、日本学術会議社会学委員会社会福祉分科会との連携があり、社会福祉系会員、連携会員の活動に協力、支援することになっています。

現在、総括は野口定久先生(日本福祉大学)、事務総括は湯澤直美先生(立教大学)で、事務局は日本社会福祉学会事務局に置かれています。

2010年度総会終了後、「日本社会福祉系学会の東日本大震災復興に向けた対応について」と題するシンポジウムが開催されました。連合は、大震災後の調査研究活動に向けて、損保ジャパンの研究費200万円を獲得しています。

特集 東日本大震災と私たち

東日本大震災後の便り

福島大学 生島 浩(理事)

「取り残され感」、今の福島県民の真情である。宮城・岩手県と違って、本県は被災・被害中であり、PTSDへの対応が声高に叫ばれているが、決して「ポスト」ではない。復旧・復興のニュースが溢れているなかで、手つかずどころか、避難地域が拡大している。「喪失感・不安」よりも、「怒り」が臨界点に達しつつあり、人の炉心が溶融しないことを祈るばかりだ。

被災地にある大学人として、支援活動に微力を尽くしている。避難所の児童・生徒の学習支援をしている学生のケア、不安定となっている子どもや親の心理相談、被災した児童・生徒の受け入れに伴う学校安全と子どもの心の危機管理などである。最後の危機管理については、社会文化的背景が大きく異なる「被災地＝浜通り」から「避難地＝中通り」への移住に伴い、受け入れ側、特に学校は大きなリスクを抱えることとなった。リスクマネジメントを生業とする者として、アウトリーチによる教員やスクールカウンセラーのスーパーバイズを中心とする支援に最も力を入れている。

6月になって、英国の自閉症の専門家に被災地を实地調査してもらい、障がいのある子どもたちへのケアマネジメントについて教示を得るという活動にも携わることができた。まずは、「普通の生活」を送ること、身の丈に合った、そして、継続性

のある支援活動に努めていきたい。

東日本大震災に寄せて

佐々木 光郎(理事)

津波の浸水被害を受けた地域(福島、宮城)は、かつて私が家庭裁判所調査官として調査や試験観察で訪れたところである。あの時に家庭訪問を行った家や、少年が在籍した学校はなくなった。そこで暮らしていた人々はどうしたのだろうか。

早い段階で、事務局から原稿依頼を受けたが、そのままにしてしまった。大震災とそれに続く原発事故はまぎれもなく客観的な出来事である。それはわかっているが、私にはいまだに事実として受け入れられない。だから、何を、どこから、どのように思考すればいいのか、わからないまま、私の考える力が止まっている。だから、綴られなかったのである。やっとの思いでこの小さな文を書いている。

報道等によると、被災された方々が冷静かつ沈着に、しかも気丈に行動している。そのこと自体は良いことである。しかしながら、私が思うのは、被災した方々は、個人差もあるが、遭ったダメージが余りにもおききため言葉にできないまま、それらが奥深く沈着し、いま、生命をつなぐのに精いっぱいではないかということである。だから、時間が経つにつれ、受けた心身の衝撃がどのようなかたちで表現されるのか心配でな

特集 東日本大震災と私たち

らない。少しずつ凍った心を溶かしていくしかないのだろうか。ちょうど、理不尽な犯罪被害を受けた者が抱く心の状態に底通するかと思うと胸が痛む。

思いつくのは、1933年の三陸大津波である。千人単位の死者・所在不明者が出た。私は、20年も前になるが、仙台市にある児童養護施設の仙台基督教育児院の百年史の編さんにかかわったとき、当時、同院の保母（見習）となったばかりの女性に聴いた。彼女は、急きょ、被災地の臨時保育所の保母として遺体を焼く高台で、残された子どもたちの保護にかかわったという。私は彼女の話を書き残して残した。後年、牡鹿半島・三陸（宮城）の現地にも行った。社会事業はつねに災害被害者の救済の歴史でもあった。

今回の大震災では、多くの家族を壊した。修復には何十年もかかるケースもあろうし、それができない家族もいるだろう。残った者、とくに高齢者、障がい者さらには子どもたちにもいろいろな困難が待っている。両親を失った子どもは100人を有に越えていると聞く。子どもたちの生活、健康、福祉、教育をどのようにするのか。親族に引き取られたものもいるが、里親等の社会的養護が求められている。

飯館村（福島）には日本の原風景が広がる。調査で出かけたときの景色が脳裏から離れない。いま、村民の暮らしが根こそぎ壊されている。過疎地に原発を押しつけて電力を湯水のごとく使ってきた私たちのあり方が問われている。

東日本大震災

小林英義（理事）

東日本大震災の当日、私は午後から自宅で国会中継を視聴していた。突然、「緊急地震速報」の音に身を構えたが、初めて経験する大きな揺れにあわてながら食器棚を押えた。そして、水槽からあふれた水を急いで拭き、階下への影響を防いだ。何回も続く余震に身体も硬直する。結局、さいたま市郊外にある築17年の自宅マンションは、一晩、電気、ガス、水道のライフラインが止まってしまう。ろうそくの灯をともしながら妻の帰宅を待ちわび、その日は早々に休んだ。すでに家を出た息子、娘それぞれの家族の無事も確認できた。

翌日の報道から未曾有の大震災であることを実感するが、思いは会津時代の、かつてのゼミ生へとつながる。岩手県の釜石、陸前高田、宮城県や福島県の彼ら（彼女ら）の消息を、ゼミ生のネットワークから確認する。幸いにも命には別条はなかったものの、迫りくる津波を背にしながら園児の手を引いて高台へ避難した保育士のゼミ生。家はことごとく流されたものの、間一髪、命を取り留めた社協相談員のゼミ生…などなど。取りあえず、皆の無事を確認することができた。

両親を津波で亡くし、保護者となった祖母の待つ避難所へ帰宅する7歳と9歳の男児の兄弟。津波に流された自宅跡で、亡くなった母親らに向けてトランペットを奏でた岩手県立大船渡高校3年の佐々木さん…。月並みの言葉しかかけられないが、「がんばれ！」と声援を送りたい。

東日本大震災について

小木曾 宏（理事）

3月11日、私の児童養護施設では、丁度、中学校の卒業式が行われ、子ども達が戻って来ていました。只ならぬ揺れに、子ども達はテーブルや机の下に隠れました。幼児は揺れが治まっても、しばらく出てきませんでした。その後、大津波が東北海岸地帯を襲ったことを知ることになりました。毎日、報道が

伝えられるたびに、心が締め付けられる思いでした。千葉県は、銚子方面の海岸地帯や浦安方面が液状化で、被害を受けました。幸い東北地方を含む、児童養護施設の子どもの達は無事との報告を東北ブロック児童養護施設協議会から受けています。しかし、今後、「震災孤児」と言われる子ども達の実態が明らかになった場合、里親委託や定員外で、関東の児童養護施設も受け入れを申し出ていくことを決めています。

東日本大震災のボランティア

野田正人（理事）

震災で両親をなくした「孤児」が、5月末で184人との厚労省の発表は、心のトラウマはもちろん、社会的養護や親権と未成年後見などさまざまなことを考えさせる。

震災後2週間たった3月末から、福島や仙台に入り、その後は京都や滋賀で、学生を送り出したり、臨床心理士や社会福祉士の派遣や後方支援に関わる身として、この震災は、これまで関わった阪神淡路や中越地震に比べて、非常にボランティアが入りにくいと感じている。

その理由の解明はおくとして、震災はもともとあった、個人的あるいは社会的課題を著しく拡大する役割を果たしている。病気は重篤となり、障がいのある人は避難所でいっそう困惑する。地域の凝集力は高まる反面、地域になじめていない人は避難所でも居心地が悪い。内向的な人は抑うつ的に、外向的な人は過活動に。そのような光景を見てきたボランティア学生たちは、怒りの矛先を向けられたり、泥棒と間違われてがれきの街で職務質問されたりと、現実の厳しさを感じて戻ってきている。

支援を活用できる力には、地域差が大きすぎる。そのことが、住民の安心・安定にも大きな差となっている。石井十次の岡山孤児院や、石井亮一の滝乃川学園の前身である孤女教育施設の当初の活動が、明治の濃尾地震の支援として大きな役割を果たしたことは有名だ。司法福祉も復興までのいろいろな場面で、出番があるように感じている。

大震災支援記

村尾泰弘（学会誌編集委員）

平成23年4月11日～13日の3日間、東日本大震災の被災地支援に行ってきました。私の場合は、日本赤十字社の「こころのケア班」のメンバーとして、支援活動に参加しました。被災地は陸前高田市。車中から見る瓦礫の光景は息をのむものでした。その光景を写真に撮りながら、ふと「こんなことをしても良いのだろうか」という不思議な感情に襲われました。「もしかしたら、この瓦礫の下に人が眠っているのではないか。写真など撮っても良いのか」。生まれて初めて体験する複雑な罪悪感でした。3日間の支援活動の中で、就学前の子どもを持つお母さんたちに、リラクセーションを指導しながら話を聞いたり、学校を訪問したり、避難所の人に声をかけたりしましたが、余震に何回も遭遇し、このような中で生活することが、いかにストレスフルかを身をもって体験してきました。

がんばれ！がんばれ！とテレビから繰り返し流れてくる映像と音声。しかし、私のような臨床心理士に言わせると、被災者の中には「がんばろう」と言われても、「これ以上がんばれない」人もいます。ひどい落ち込みの状態になっている人、こころが疲れ切っている人、そういう人たちにはどんな声掛けがよいのか。帰りの飛行機の中で、そのことを何度も自問しつつ、帰路についたのでした。

第12回日本司法福祉学会全国集会「おおさか大会」のご案内

「おおさか大会事務局長」あいさつ

遠藤洋二

日本司法福祉学会第12回大会実行委員会の事務局長を仰せつかりました、関西福祉科学大学の遠藤洋二でございます。

今回は8月上旬に、神戸市内で国際犯罪学会第16回世界大会が開催される関係で、例年より1月遅れた全国大会となります。

第12回大会の会場である関西福祉科学大学は、奈良との県境にほど近い大阪府柏原（かしわら）市にあります。近隣には全国第2位の大きさを持つ応神天皇陵をはじめとする「古市古墳群」、少し足を延ばせば遷都1300年を迎えた「奈良」、2000年以上の歴史を持つといわれる「伊勢神宮」など、歴史と自然に囲まれた環境にあります。

最寄駅である「近鉄河内国分駅」へは徒歩約12分、JR大阪駅へは約50分、空路で言えば関西空港および伊丹空港へは1時間強と、利便性が高いとは言えませんが、「天王寺」「上本町」「難波」「鶴橋」など、大阪らしい繁華街へ30分以内で行けるなど、飲食・宿泊等にご不便をおかけすることはありません。

今回のテーマは、対極で捉えがちな「被害」と「加害」の関係に焦点を当て、連鎖、錯綜する両者に対応する司法福祉

実践を中心に議論ができればと考えています。

また、小中学校に多くのスクールソーシャルワーカーが配置され、積極的に児童・生徒の問題に関わっている大阪府の地域性を見据え、教育機関と司法、福祉機関との連携・協働について理解を深めるため、大会初日のプログラムへは、学校関係者に対しても幅広く参加を呼び掛ける予定です。

学会理事でもあります立命館大学の野田正人先生、甲南大学の前田忠弘先生をはじめ、関西を中心とした研究者、実務家の方々に実行委員会へ加わっていただき、現在、全国からおいでいただく会員諸氏をお迎えする準備をしております。

何かと不慣れで皆様方にはご迷惑をおかけすることもあるかとは存じますが、実行委員長である松宮満（関西福祉科学大学）を中心に、大学を挙げて第12回大会を盛り上げていく所存です。

当日は、今のところ大学行事は入っておらず、皆様方が活発にご議論していただく場は十二分にご用意できると思います。昨年の状況を考えますと、猛暑が続く中の大会であることが予想されますが、より多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

大会概要

大会日時 2011年9月3日（土）～4日（日）

大会会場 関西福祉科学大学（大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11-1）※近鉄「河内国分」または「大阪教育大前」から徒歩12分程度。ご来場には公共交通機関をご利用ください。やむを得ない事情によりお車で越しになる場合は、8月10日までに事務局へご連絡ください。

大会テーマ

「被害～加害～被害」

——虐待と非行・犯罪への司法福祉実践を考える——

大会日程

■第1日 9月3日（土）

午前10時～12時 プレセッション

（1）ラウンドテーブル

「私たち支援者は、何ができたのか。何ができなかったのか——当事者からの提言を受けて——」

内容：少年院・児童自立支援施設出身者から、そこで出会った司法・福祉、教育等の支援者（専門職）について語っていただき、それを受け、私たちの支援のあり方を探る。

話題提供者：コーディネーター 前野育三（兵庫県弁護士会）

話題提供者 当事者1 才門辰史

（特定非営利活動法人セカンドチャンス！副代表）

支援者1 津富 宏（特定非営利活動法人セカンドチャンス！代表、静岡県立大学）

当事者2 A氏（女性）

支援者2 山野則子（大阪府立大学）

（2）ワークショップ

「学校での『加害』、家庭での『被害』」

内容：スクールソーシャルワーク・アセスメント（演習）『生徒指導提要』でも繰り返し記載されているように、近時、学

校での生徒指導や教育相談では「アセスメント」が求められており、特に子どもの非行や問題行動等を考えるうえで「虐待」の視点は不可欠であると言われている。このワークショップでは、様々な情報から包括的に背景を見立てるスクールソーシャルワーク・アセスメントのプロセスを、模擬事例を使って体験する。

企画・担当：佐々木千里（立命館大学、SSWスーパーバイザー）

対象：教職員、SSW、SC、関係職種の方（教育、福祉、司法、医療、警察等）、研究者等

参加申し込み：同封のハガキにて申し込みを受け付けます。なお、人数の関係で申込者全員がご参加いただけない場合もありますので、予めご了解ください。

午後1時～1時10分 オープニング・セレモニー

午後1時10分～5時40分 大会シンポジウム&ミニ講演

[午後1時10分～3時]

シンポジウム1 虐待～虐待から非行への移行～

シンポジスト 小川剛史（寝屋川市教育委員会）、山本恒雄（日本子ども総合研究所）、加藤曜子（流通科学大学）

コーディネーター 野田正人（立命館大学）

[午後3時10分～3時40分]

ミニ講演「非行の背景を考える」

講演 野口善國（兵庫県弁護士会）

[午後3時50分～5時40分]

シンポジウム2 非行「非行の背景にある子どもの傷つき」

シンポジスト 相澤 仁（国立武蔵野学院院）、松田美智子（法務省名古屋矯正管区）、野口善國（兵庫県弁護士会）

コーディネーター 加藤幸雄（日本福祉大学）

午後5時40分～6時20分 日本司法福祉学会総会
午後6時30分～ 懇親会

■第2日 9月4日(日)

午前9時～12時30分 テーマ別分科会

第1分科会

「精神障害者の人権は守られているか

……相談機関、医療機関、施設、地域での取り組みと課題」

企画者：松原 新（鈴鹿医療科学大学）

話題提供者：妹尾 忍（岡山市こころの健康センター）、峰政裕一郎（和歌山市・ももたにクリニック）、池淵佐知子（米子市・養和病院）、富田千晶（鈴鹿市・ジェイエイみえ会）

第2分科会

「社会的養護における児童養護施設と児童自立支援施設の役割分担——児童福祉施設間の連携を中心に——」

企画者：小林英義（東洋大学）、小木曾 宏（房総双葉学園）

話題提供者：平井光治（里親）、叶原土筆（南野育成園）、野口善國（弁護士）

第3分科会

「非行少年に対する学校の役割

——スクールソーシャルワーカーの視点からのとらえ直し——」

企画者：金澤ますみ（大阪人間科学大学）

話題提供者：徳永祥子（阿武山学園）、野田正人（立命館大学）ほか教育委員会、家庭裁判所関係者（未定）

第4分科会

「非行態様別指導（暴力）ワークショップ」

企画者：若狭広直（青森少年院）

第5分科会

「ドメスティック・バイオレンスに対する司法・行政の役割——多角的アプローチから——」

企画者：松村歌子（関西福祉科学大学）

話題提供者：井上匡子（神奈川大学）、宮園久栄（東洋学園大学）、斎藤実（弁護士）、立石直子（岐阜大学）、上北正人（神奈川大学）町村泰貴（北海道大学）、手嶋昭子（京都女子大学）

第6分科会

「犯罪者の社会復帰支援」

企画者：古川隆司（追手門学院大学）

話題提供者：中川英男（滋賀県地域生活定着支援センター）、原田和明（南海福祉専門学校）、益子千枝（大阪府地域生活定着支援センター、よりそいネットおおさか）

第7分科会 *現在企画中

「施設生活の意識に関する調査研究」

企画者：西嶋嘉彦（大阪府立修徳学院）

第8分科会 *現在企画中

「少年司法の現状」（仮題）

企画者：前田忠弘（甲南大学）

午後1時30分～午後4時 自由研究発表
（*報告15分、質疑討論10分）

○第1会場 司会進行：古川隆司（追手門学院大学）

発表者

1. 「更生保護施設における『福祉との連携』に対する意識」古川隆司（追手門学院大学）

2. 「地域定着支援に関わる職員からみた地域定着支援センターの困難について」江口賀子（西九州大学）
3. 「香港における群育学校」山田美香（名古屋市立大学大学院人間文化研究科）
4. 「少年保護団体における戦時中の少年保護の実態——昭和18年『司法保護団体名鑑』による考察」内田知宏
5. 「少年の逆送決定と裁判員裁判における重罰化：いわゆる『犯情説』の構造と役割」齊藤豊治（大阪商業大学）
6. 「『迷惑施設』をめぐる地域紛争と合意形成」野村恭代（関西福祉科学大学）

○第2会場 司会進行：藤原正範（鈴鹿医療科学大学）

発表者

1. 「児童相談所と弁護士会の連携、協働についての実務的課題」遠藤 洋二（関西福祉科学大学）
2. 「児童相談所一時保護所が地域児童相談体制に与える影響に関する研究——2007年から2009年にかけて新設された一時保護所のある地域の調査から——」山口聡一郎（鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科）
3. 「児童虐待死亡事例について司法記録等を用いた検証について」齋藤知子（帝京平成大学）
4. 「イタリアの精神保健福祉の歴史の変遷」富田千晶（社会福祉法人ジェイエイみえ会）
5. 「市教委による効果的な生徒指導に向けた戦略的取り組み」佐々木千里（立命館大学）、小川剛史（寝屋川市教育委員会）
6. 「被虐待の子どもが非行化したときの支援——児童養護施設の現状分析——」藤原正範（鈴鹿医療科学大学）

大会参加費

会員・非会員	3,000 円
弁当	1,000 円（1日目・2日目両日の場合2,000 円）
懇親会	4,000 円

大会参加者へ

1. 参加申し込みは同封のハガキをお使いください（締め切りは8月19日[金]）です。
2. 参加費は同封の「振込取扱票」をご利用ください。郵便局等に設置されているATMから振り込みいただければ手数料は80円です。手数料はご負担いただきますようお願いいたします。円滑な大会運営のため、事前振り込みにご協力ください。
3. 大学内のコンビニエンスストア・食堂は、両日も営業していません。周辺には大きな飲食店はありません。用意しております弁当をご利用ください。
4. ホテル等の宿泊の斡旋は行いません。河内国分駅から30分程度で行ける「心斎橋・なんば・上本町・天王寺等」に、安価なビジネスホテルが多数ありますのでご利用ください。

後 援

社団法人大阪社会福祉士会

事務局

〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11-1

関西福祉科学大学社会福祉学部 遠藤洋二（事務局長）

電話 072-942-2951（ダイヤルイン）、072-978-0088（代）

FAX 072-978-0377 E-mail yendo@fuksi-kagk-u.ac.jp

◎お問い合わせは、原則、電子メールでお願いします。

■プレセッション・シンポジウム・各分科会の企画者、自由研究発表者へのお願い

抄録集掲載用の原稿を7月16日（土）までに遠藤洋二までメールで送ってください（期限厳守をお願いします）。

（様式）用紙サイズ：A4、ワードで作成

原稿枚数：プレセッション、シンポジウムは適宜、各分科会、自由研究発表は2枚まで

日本司法福祉学会 2010 年度決算報告 (2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

(円)

科 目			予 算	2010/8/2 中間決算	決 算
収入の部	2009 年度より繰越金		1,503,142	1,503,142	1,503,142
	会費	2010 年度会費	1,250,000	1,089,000	1,461,000
		過年度会費	300,000	322,000	482,000
		入会金	20,000	24,000	50,000
		合計	1,570,000	1,435,000	1,993,000
	助成金・寄付	日立みらい財団助成金等	100,000	100,000	100,000
	その他		0	288	211,415
合計			3,173,142	3,038,430	3,807,557
支出の部	事務局費	通信費	200,000	110,056	183,307
		管理労務費	200,000	42,062	126,110
		ニュースレター発行費	200,000	82,748	122,481
		会計監査費	100,000	5,600	55,580
		合計	700,000	240,466	487,478
	会議費	理事会費	300,000	0	190,880
		その他会議費	100,000	59,840	59,840
		合計	400,000	59,840	250,720
	全国大会費	実行委員会補助費	300,000	550,000	550,000
	学会誌編集費	編集委員会費	100,000	0	99,440
		生活書院編集委託費	550,000	550,840	550,840
		その他	50,000	16,947	16,947
		合計	700,000	567,787	667,227
	予備費		1,073,142	1,000	615,055
	合計		3,173,142	1,419,093	2,570,480

2011 年 3 月 31 日現在残高 1,237,077 円 (郵便振替残 236,900 円、ゆうちょ銀行総合口座残高 988,917 円、現金 11,260 円)

■補足説明 「収入の部・その他」の内訳について (円)

利子	536
学会誌「司法福祉学研究」販売	5,200
なごや大会実行委員会からの返金	200,679
2011 年度会費	5,000
合計	211,415

■「支出の部・予備費」の内訳について (円)

二重支払会費返金	6,315
現代人文社から学会誌の買取費	124,005
なごや大会未払金清算	84,210
国際犯罪学会世界大会分担金	400,525
合計	615,055

■2010 年 3 月 31 日現在の財産状況 (日本司法福祉学会)

1. 郵便振替残高 236,900 円
 2. ゆうちょ銀行総合口座残高 988,917 円
 3. 現金 11,260 円
- 以上の合計額 1,237,077 円

※3月31日、北澤信次監事、4月1日、松宮 満監事の会計監査を受けました。若干の会計処理のミスを発見していただき、その後の修正により適正に処理されたとの所見をいただきました(決算及び監査結果については、2011 年 9 月 3 日の「おおさか大会」会期中の総会で報告します)。

日本司法福祉学会 2011 年度予算案 (2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

(円)

科 目			予 算	(参考) 2010 年度予算
収入の部	2010 年度より繰越金		1,237,077	1,503,142
	会費	本年度会費	1,400,000	1,250,000
		過年度会費	100,000	300,000
		入会金	40,000	20,000
		合計	1,540,000	1,570,000
	助成金・寄付	日立みらい財団助成金等	100,000	100,000
	その他		0	0
合計			2,877,077	3,173,142
支出の部	事務局費	通信費	200,000	200,000
		管理労務費	150,000	200,000
		ニュースレター発行費	150,000	200,000
		会計監査費	100,000	100,000
		合計	600,000	700,000
	会議費	理事会費	300,000	300,000
		その他会議費	100,000	100,000
		合計	400,000	400,000
	全国大会費	実行委員会補助費	300,000	300,000
	学会誌編集費	編集委員会費	100,000	100,000
		生活書院編集委託費	560,000	550,000
		その他	40,000	50,000
		合計	700,000	700,000
	予備費		877,077	1,073,142
	合計		2,877,077	3,173,142

※本予算案は、2011 年 9 月 3 日の「おおさか大会」会期中の総会において提案します。

NOFSW（全米司法ソーシャルワーク協会）の動向

2011年4月16～18日、ルイジアナ州ニューオリンズ市において、NOFSW 第28回定期集会在開催されました。集会テーマは、昨年度の集会上に日本司法福祉学会会員が参加したことを意識したのか、“Global Horizons”でした。NOFSW ホームページのニュースレター“Open Court”2011春号で、大会の様子を写真入りで見ることができます。

この集会上で、役員改選があり、次の新役員が選出されました。

会 長：キャサリン・カーティ（PhD. MSW. LCSW）ロードアイランド州

事務局長：スーザン・マッカーター（MSW. PhD）ノースカロライナ州

会 計：ロバート・バターズ（PhD. LCSW）ユタ州

評議員：ステイシー・ハーディ（PhD. LCSW. JD）ネバダ州
バイオラ・バーンエデン（PhD. LCSW）バージニア州

司法福祉理論研究会のご案内

9月3日（土）～4日（日）は「おおさか大会」ですが、その前日午後、「第2回司法福祉理論研究会」を開催します。「おおさか大会」プレ企画として、ぜひご参加ください。

日時：9月2日（金）午後3時30分～5時30分

会場：関西福祉科学大学

（当日、大学正門に会場を掲示します）

内容：1. 講演「韓国における司法福祉の展開」

張善敬（東京大学大学院）

2. 報告（NOFSW ジャーナルの論文紹介）

藤原正範（鈴鹿医療科学大学）

湯原悦子（日本福祉大学）

3. 講演・報告を受けてのディスカッション

事務局からのお知らせ

会員動向

理事会により加入が承認された新会員

4月1日

江口賀子（西九州大学）

笠原麻央（大阪弁護士会）

石井幹夫（千葉県健康福祉部）

4月26日

佐々木千里（立命館大学・SSW）

上村昌代（京都女子大学大学院現代社会研究科）

5月10日

佐渡安衣子（鹿児島家庭裁判所）

内田知宏（健康科学大学）

5月23日

岡部眞貴子（東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科）

6月10日

富田千晶（ジェイエイみえ会）

今井真美（京都医療少年院）

藤堂千浪（東京都中部総合精神保健福祉センター）

* 6月10日現在の会員数：336人

会員の分類（職種別）* OBを含む

分類	大学	学生	家裁	法曹	更生保護	矯正	社会福祉	その他不明
人数	144	18	31	27	22	25	54	15

所属先地域別

地域	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州	不明
人数	3	12	91	76	74	17	21	42

会費納入のお願い

2011年度会費の請求書をお送りしています。昨年にもまして会員の皆様の早期納入が進んでおり、事務局としてはたいへん感謝しています。

未払いの会員の方も、早期の納入にご協力をお願いいたします（2011年6月19日現在、336人中181人の会員が2011年度会費を納入しました）。

『司法福祉学研究』
バックナンバー割引販売のお知らせ

学会誌バックナンバーを会員限定割引にておわけします。

【価格】

1号～9号のセット	1セット5,000円
1号～8号	それぞれ1冊1,000円
9号	1冊1,500円
10号	1冊1,680円

いずれの場合も委託先の（株）生活書院

（〒160-0008 東京都新宿区三栄町17-2 木原ビル303

TEL：03-3226-1203 / FAX：03-3226-1204 担当：高橋）

まで直接お申込みください。